

(案)

令和8年度愛媛県男女共同参画会議（第2回） 委員発言概要

- 1 日 時 令和8年7月15日(火) 15:30～17:00
- 2 場 所 県庁第二別館 10階 1003 会議室
- 3 出席委員 6名（敬称略）

会 長	岡本 隆	愛媛大学社会共創学部教授
副会長	山中 美幸	公益財団法人えひめ女性財団常務理事
委 員	小國 恵子	日本防災士会愛媛県支部支部長
〃	堀田 真奈	特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ代表
〃	柴田 智恵	愛媛県経営者協会副会長・愛媛県経営者協会女性リーダーズクラブ会長
〃	関口 顕治	NHK松山放送局コンテンツセンター長
- 4 議 題
 - (1) 第3次愛媛県男女共同参画計画の中間改定について
 - (2) 県の取組みについて
 - (3) 意見交換

(1) 中間改定

【会議概要：委員等からの主な意見】

・タイトルや素案全体について

(小國委員)

副題案「～人生 100 年時代、一人ひとりが自分らしく輝ける共生社会を目指して～」について、「媛の国」という表現が女性のみを対象としている前回計画の副題と比較して、現案は両性を広く包括しているため、良いと思う。

(柴田委員)

素案全体についても、第3次計画は「女性」を主語とした目標・施策が多かったが、現計画は男女両方を対象としているところが良い。

(関口委員)

本計画において専門用語が多く用いられている点が気になった。目標や施策といった計画の内容そのものだけでなく、計画の内容や策定の背景にある思いを県民にどう伝えるかということや、計画をどのような形で実行に移すかということも意識してほしい。

(案)

- ・素案 P. 20「地域社会において、特定の性別に特定の役割を期待する「古い慣習」が根強く残っています」という部分について

(堀田委員)

実感のない人に説得力を持って伝えるためには、古い慣習とは何かという定義や、具体例、実際に古い慣習が残っているという根拠等を提示する必要があるのではないかと。

(柴田委員)

具体例で思い浮かぶのは自治会の構成。最近参加した場においても、携わる男女役割は根強く残っていると感じた。

(副会長)

祭りの実行団体や打ち上げの場も良い具体例ではないかと。

(会長)

区長会も性別役割分担がはっきりしていると感じた。

(小國委員)

「風習」(委員意見記載)より「慣習」(素案記載)が適切だと思う。

(事務局)

現状集計している調査の中で根拠となりうるものを挙げるとすると、令和6年度実施の「男女共同参画に関する意識調査」にて調査した、「男女の地位の平等感」や、内閣府調査の「自治会会長の女性の割合」等ではないかと思うが、該当部分については、「地域社会において、〇〇のような特定の性別に特定の役割を期待する古い慣習」という風に具体例について追記する方向で検討したい。

(2) 県の取り組みについて

【会議概要：委員等からの主な意見】

- ・企業が男女共同参画関連のイベントに参加するための施策について

(副会長)

今年度の「男女共同参画社会づくり推進県民大会」は現在、参加希望者が約200名を超えている。一方、自治体関係者の参加が多く、特に参加してほしい企業（特に中小企業）からの参加は少ない。そこで、ひめボスの認証要件内に「男女参画関連のイベントへの参加」（県民大会など）を追加するのはどうか。ひめボス認証取得企業は特に、女性活躍関連の情報や考え方について適切なタイミングでアップデートしていく必要があり、認証制度がその機会を提供できれば良いと思う。

- ・男性の家事、育児参加について

(堀田委員)

取り組みは増えたが、男性育休を想定している企業が少ない。人手不足の中だから、DX・仕事の属人化解消を進める取り組みが重要なのではないかと。

(案)

家事ができていない男性にとって、家事をしていない人向けのイベントに参加するのは恥ずかしい、という意見があった。イベントは、こういった男性当事者の意見を踏まえて企画してはどうか。例えば、「育休取得や家事分担をするための仕事の効率化を学ぶ」といった内容はどうか。

・若者向けの施策について

(堀田委員)

若者向けのイベントについて、最近は学生も忙しいため、量より質を重視すべきだと思う。単に参加させるようなものではなく、主体性を促すようなものを企画してほしい。

(小國委員)

冊子作成事業が多すぎる気がする。他にお金を使うべき事業があるのではないかな。

冊子を作るとしても、万人が利用できるものを作るべき。例えば、「家事シェアスタイルブック」はユニバーサルカラーを使っておらず、読みづらい。

(関口委員)

紙媒体が多いと思う。デジタル媒体への比重を増やした方が良いのではないかな。特に若者向けの事業では、SNSの利用が有効だと思う。例えば、SNSで家庭の取組みの発信を競い合うようなイベントを開催するなど。

・DV、性暴力に関する相談体制の充実について

(副会長)

男女共同参画センターでは、専門人材（相談員等）の確保が難しい状況。非常勤が多いことが一因。専門人材の正規雇用を進める等の施策が必要ではないかな。

外国人による相談も増えており、今後、国際交流センターと男女参画センターの連携を進める。翻訳など新しい専門人材も必要ではないかな。

(柴田委員)

男性も性暴力について相談しやすい環境の整備が必要ではないかな。

(副会長)

男女共同参画センターにて男性相談は実施しているが、月2回と実施日数が少なく、予約も多い。退職した県職員が対応している状況。人材確保が必要だと思う。

(会長)

人材確保に注力しつつ、大学内でも（トイレに貼るなど）より男性にとって利用しやすい体制づくりを進めていきたい。